

旬の話題

地球環境保全や健康志向の高まりに伴い、それらの

ニーズに対応した取り組みがさまざまな産業分野で繰り広げられて久しい。そう

した中、アパレル業界にまた一つ、天然材料による新種が生まれた。和紙を原料

に使った織糸「和紙糸」だ。衣料品に限らず、インテリ

ア商品やタオル、産業資材にまで幅広く応用でき、無限の可能性を秘めている。

「和紙糸」を開発したのは広島県福山市に本社を置く備後燃糸(光成猛社長)。

備後燃糸

長年培った燃り技術のノウハウを活用して、「水燃り製法」という新技術(特許出願中)を約7年かけて開発。これにより和紙糸を完成させた。

本社工場のある福山市を中心にした備後地域は

デニムの一大産地。岡山、児島まで含めた三備地区全

体はデニム生産から縫製、加工まで一貫したジーンズ

のメッカ。そんな立地条件もあって、付加価値ジーン

ズの創出への貢献という思い入れも強い。そこで当然

考えついたのが「和紙デニ

ム」だ。

地元機屋との取り組みを

と考えて昨年、早速、「和紙糸」を緯糸に使う手法を

提案。生地サンプルから縫製、ウオッシュ、しわ加工

と従来のジーンズ生産工程を踏んで製品サンプルを仕

上げるまでスピーディーに

運んだ。

今、そうして出来上がった製品サンプルを持参し、

自社商品としての和紙糸の紹介、販売にスタッフ挙げ

て全力投球中という。

営業部・光成明浩課長に

よると、そうした提案活動

の一環で、今年は「地元金

融機関が主催する異業種交

数品目に及んだ。サンプル

化したのもあれば、進行

中のものもあるが、今は「よ

り良いサンプル提案と人脈

づくり」に日々、時間を費

やしている。

そんな活動の中で、ビジ

ネス軌道に直ちに乗るか乗

らないは別としても、何よ

りもすごかったのは「あら

物、医療用サポーターなど

数品目に及んだ。サンプル

化したのもあれば、進行

中のものもあるが、今は「よ

り良いサンプル提案と人脈

づくり」に日々、時間を費

やしている。

そんな活動の中で、ビジ

ネス軌道に直ちに乗るか乗

らないは別としても、何よ

りもすごかったのは「あら

ゆる業種業態をまたにかけ

環境配慮型商品が様々なジ

ロハス志向、クールビズと

ヤンルから登場する中、今

いった世界に対応していけ

後は「和紙糸の多様な使わ

る」(光成猛社長)と自信

を深めている。

を深めている。

を深めている。

を深めている。

を深めている。

を深めている。

独自製法で和紙糸

「地球と人に優しさ」

「和紙タオル」(自社名で

企画・販売し1ケース3本

入り13000円)。ギフト

ト向けを主に引き合いが活

発という。光成課長は「本

来、第一弾として発売した

いデニムの先を行ってしま

った」とうれしさの一方で

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

苦笑いを見せるが、近年、

後加工への柔軟性もある(和紙糸を緯糸に使ったデニム)

